



6人の息の合った演技とダイナミックな転回技は男子新体操の醍醐味。日々の練習の積み重ねにより生み出された演技は、見る者を魅了する。



賞状を手に選手全員で記念撮影。後列左から大槻真平くん、高橋亮斗くん、高橋拓夢くん、高橋優真くん、前列左から佐藤綾人くん、佐藤颯人くん、遠藤那央斗くん、佐藤嘉人くん

男子団体成績

順位	チーム名	構成	実施	減点	合計
1	井原ジュニア新体操クラブ(岡山県)	9.325	9.325	-	18.650
2	恵庭RGクラブ(北海道)	9.225	9.200	-	18.425
3	華舞翔新体操倶楽部(福島県)	9.100	9.025	-	18.125
4	NPOきふ新体操クラブ(岐阜県)	8.950	9.125	-	18.075
5	半田市立半田中学校(愛知県)	8.950	8.900	0.1	17.750
6	キューブ新体操教室(宮城県)	8.850	8.750	-	17.600



全身表現

The Artists

キューブ新体操教室・男子

第29回全日本ジュニア新体操選手権大会に挑む
団体競技は持てる力を発揮し、堂々の6位入賞!

華麗な動きとダイナミックな転回技が織りなす演技は、見る者を魅了する。頭のとっぺんから手足の指先まで、全身ですべてを表現する。彼らは、アスリート(競技者)であると同時にアーティスト(芸術家)だ。

宮城・東北の代表として
全国の強豪に挑む

10月21日から23日の3日間、「第29回全日本ジュニア新体操選手権大会」が国立代々木競技場第一体育館(東京都)で行われ、本市のキューブ新体操教室・男子(柴田佐和子監督)が団体競技と個人競技で東北の代表として全国の強豪たちに挑んだ。

団体競技は2年振り3回目。8月の東北大会で2位に入り全国への切符を手にした。個人競技は佐藤綾人くん・颯人くん・嘉人くん(ともに東中1年)の3つ子がそろって出場となった。昨年の全日本ジュニアを経験した綾人くんは東北大会で優勝し2年連続。二男の颯人くんは4位、三男の嘉人くんは5位に入り、個人競技では初めての全日本ジュニア出場となった。

大会は、21日に開会式と公式練習、22日午前に団体競技、午後に個人競技の前半2種目(クラブ・スティック)、23日に個人競技の後半2種目(ロープ・リング)が行われた。

まさかのアクシデント!?
団体出場選手が前日に発熱

団体競技は、佐藤3兄弟に加え、高橋亮斗くん・拓夢くん(と

激戦の団体競技
3分の演技にすべてを込める

みんなの願いが通じたのか、拓夢くんの熱は下がり、競技当日の21日朝に会場に到着した。拓夢くんと優真くんのどちらを起用するかは、最後まで監督を悩ませたが、予定通り拓夢くんで行くことを決めた。

キューブ新体操教室は19団体中3番目の登場。6人は緊張をほぐすかのように直前まで最終調整を行った。

そして迎えた本番。キャプテンの綾人くんを先頭に登場した6人は、マットの前で止まり大きく深呼吸吸した。マットに上がりそれぞれスタートの姿勢を決める。入場から曲が流れるまでの数秒間は、緊張の極限とも言える空間が生まれた。

それでも曲が流れると、これまでの練習が染み込んでいたかのように体が自然と動き出す。神経は手足の指先まで研ぎ澄まされ、6人の動きはシンクロする。序盤、バランスと倒立が乱れるなど多少のミスはあったが、その後はメリハリのある、息のあった動きを見せる。

全国レベルではタンブリングが弱いとされるキューブ新体操教室。しかし、それを補うかのように「静」と「動」をうまく

●男子新体操【団体競技】

手具は持たずリズムカルな動きとバランス・倒立などの静止技、タンブリング(バック転などの転回技)などを組み合わせた演技を行う。演技時間は2分45秒~3分。採点は構成10点と実施10点の計20点満点。構成点は動きの組み合わせや同時性、タンブリングの難度など演技構成と技術価値が評価される。実施点はミスの有無や選手の動きの質などが評価される。

もに東中2年)、遠藤那央斗くん(白一小学4年)の6人がレギュラー、大槻真平くん(たかはしゆま)と高橋優真くん(ともに東中2年)の2人がバックアップメンバーとして帯同する予定だった。

しかし、出発前日の20日夕方から拓夢くんが発熱。本番までの回復を期待し、拓夢くんを白石に残して7人での出発となった。全国大会というプレッシャーがかかる中でアクシデント発生。21日の公式練習は急きよ、弟の優真くんが代役を務めた。普段から誰が出て同じ演技ができるように練習してきたとはいえ、選手たちの不安はゼロではなかったはずだ。選手たちは拓夢くんの回復を信じながら、競技当日の朝を迎えた。

過去最高の6位入賞
今後の成長につながる大会

あつという間の3分。演技を終えた選手たちの表情には、緊張からの解放感と心地よい疲労、演技への満足感、ミスへの後悔などいろいろな思いが混ざっているように見えた。数分後、得点が掲示される。17・600点。選手たちの頑張りや数字にも表れた。キューブ新体操教室は7団体を終えて2位につける。その後、優勝候補と予想される団体が次々と演技を終えると、順位は徐々に後退する。

それでも、最終結果は6位入賞。2年前の10位を上回る好成績を収めた。アクシデントがあった中、選手たちは集中力を切らさずミスを最小限にとどめ、自分たちが今持っている力を十分に発揮した。それと同時に、「全国のトップレベルとの差がどこにあるか」という課題が明確に分かった大会でもあった。今回の登録選手は全員中学2年生以下。結果もさることながら、今後の成長を楽しみにさせる大会となった。